

貴重医学資料のデータベース化と一般公開

栗原道夫¹ 中野美智子²

^{1,2}新潟大学附属図書館旭町分館

Kurihara M. (Asahimachi Library, Niigata University. 1-754, Asahimachi-dori, Niigata-shi, 951-8525 Japan) : Construction of Databases of Rare Old Medical Collections and Opening Them to the Public. *Igaku Toshokan* 1999;46(1):93-99.

Asahimachi Library, Niigata University has special, rare medical collections from the Edo and the Meiji periods that have been maintained by the former Niigata Medical School since the Meiji period. There are three important collections. The Morita Collection contains old manuscripts, Dutch-Japanese dictionaries, and other rare medical books from the Edo period. They are some of very few hand-written materials that have survived from that era. We constructed an image-database of this collection, which is the first attempt of its kind in Japanese medical libraries. This database was developed by a joint team of the library staff and history teaching staff of Niigata University, and thus it has a superior search system for bibliographic data as well as an excellent image data system. The Takeyama Collection and the Fujita Collection also contain rare old medical books published both in Japan and in other countries in the 18th and the 19th centuries. We have constructed a bibliographic database of these two collections, and used the data to automatically prepare printed catalogs. In this paper we describe how we constructed these databases, especially the image-database of the Morita Collection. Another feature is a description of how we conduct public relations in mass-media, such as the Internet, newspapers, and TV. The results of the announcement were so great that many people visited our library and home page. The room in which these collections are exhibited has become a popular site for the public. After releasing these works, the old medical collections proved to be very important materials in modern medical libraries.

Key words : Rare Medical Collections; Database; Public Relations; Mass-Media; Internet

I. はじめに

新潟大学医学部は明治43年に創設された新潟医科大学を前身とし、その医科大学の源は明治12年創設の新潟医学校である。旭町分館はこの新潟医学校当時から、江戸・明治時代の医学資料を多数所蔵していた。

旭町分館の特に貴重な資料として、森田文庫、藤田文庫、竹山文庫の三文庫を所蔵している。これらの資料に関しては、受け入れた時点で、藤田文庫が附属図書館「図書館だより」(1985年9月)に紹介されたが、その後は鍵がかかったままの部屋に保管されて、資料の存在を知る人も少なくなり、ほとんど利用されることもないままに時が経過してきた。整備するには特別の予算が必要なおともあり、やむを得ぬことであった。

しかしながら1997年に原分館長(当時)は、これら資料を新潟の医療の原点を示す貴重な文化

¹Michio KURIHARA : 〒951-8525 新潟市旭町通1-754.

²Michiko NAKANO.

(1998年12月21日 受理)

財であるとし、その整備資金調達のために奔走し、寄付金を得ることができた。そして、貴重資料の整理を行い、利用しやすい環境を整えようという計画がたてられた。

計画の柱は3つあった。第一に資料修復とデータベース化を行うこと、第二に資料室の環境を整備して保存と利用の両立を図ること、第三に報道機関の協力を得て、広く地域社会に対してもこれらの資料に関する情報を提供し、一般公開することであった。

このうちデータベース化については、森田文庫が江戸時代の写本・稿本であるため画像データベース化、藤田文庫と竹山文庫については書誌データを入力してOPACから検索できるようにし、合わせて冊子体目録を作成することが決まった。

これら一連の作業の中で、当館が行った新しい試みを述べ、今後の医学図書館にとって貴重資料が持つ意味を探ってみたい。

II. 森田文庫の画像データベース化

森田文庫は新潟県加茂市出身の蘭医、森田千庵の蔵書で、江戸時代の写本を中心とした貴重な和装本である。蘭書を解読稿集した「産辯」、クルムスの「Ontleedkundige Tafelen」(「解体新書」のもととなっていたいわゆるターヘルアナトミア)の自筆写本などがあり、越後(現在の新潟県)における西洋医学の草分けである。

森田千庵の蔵書は全国に散在しているが、当館では全24冊と円印1個を所蔵している。これらのうち、辞書等の4冊を除く20冊と円印1個について画像データベース化を行った。約750コマのプロフォトCDが専門業者により作成され、チェンジャーにセットされた。

この画像データベース作成により、インターネット上で、現物そのものを見るように1頁ずつ資料を見ることできるようになった。貴重資料は閲

覧するたびに傷みが心配であるが、この画像化により、誰でも、どこからでも、納得するまで、資料を画面上で見ることができる。

森田文庫画像データベースは新潟大学中央図書館と共同利用の「新潟大学貴重資料データベース」の中の1つとして作成された。この「新潟大学貴重資料データベース」は平成9年度設置された「新潟大学電子図書館化研究開発室」を中心とする電子図書館化へのパイロット・プロジェクトの1つとして構築されたものである。図書館職員と歴史学分野の教員と共同で開発が進められたものであり、学術データベースとしても十分機能するように設計されている。

このシステムはインターネットを介して、Netscape Navigator や Internet Explorer 等のブラウザにより、資料に関する目録および画像を表示するシステムである。画像情報は、1つの画像につき5種類のサイズがプロフォトCDに記録されており、縮小・拡大・回転表示ができるようになっていいる。その中から資料ごとに設定された適切なサイズの画像が最初に表示される。最初に表示される画像は、JPEG形式と呼ばれる形式で圧縮したものを磁気ディスク上に置くことで、画像データの読み出し速度の高速化を図った。

目録情報については、画期的ともいえる古文書目録のデータベース化に取り組み、表題・年代・差出者・受取者・キーワード等からの検索を可能にした。また、文書群の構造解析を行い、一点一点の文書の関連を分類フィールドで表現することを試みた。森田文庫の場合点数が少ないのでこの検索機能はつけず目録一覧のみ作成され、一覧画面で選択した画像が表示されるようになっていいる。

利用は登録制であり、利用申請も画面で行うことができる。多くの方にホームページで利用申し込みの上、利用していただきたいと思っている。

医学図書館には標本館が併設されていたり、貴重な医学資料が保存されていることがあるが、多

灸點圖解

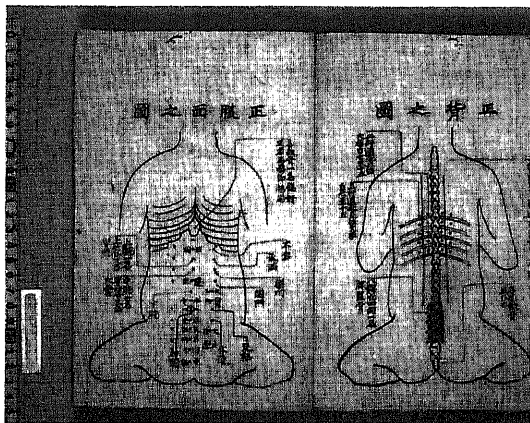
【文書群】森田文庫・【分類記号】:【差出者】:【受取者】
 【年代】:【西暦】1816//~1816// 【形態】15丁・【地名】:【人名】:【整理番号】19
 【説明】

文庫三の写本

文書群一覧ページへ戻る

頁 14 / 18 : 先頭頁 : -10 : -5 : 前頁 : 次頁 : +5 : +10 : 最終頁

サムネール(1/16倍)表示 : 縮小(1/4倍)表示 : 通常表示 : 拡大(4倍)表示 : 左回転 : 右回転



Copyright (c) 1996 Ricoh Company, Ltd.
 All rights reserved.

図 1. 森田文庫の画像画面

くの場合、施錠されたままであったりして有効利用が図られていない場合が多い。極端な場合、その存在を知っているのはごく一部の研究者だけだったりする。このような状態を改善し、広く有効利用を図るとともに、資料の保存・破損の問題をも解決するには、この画像データベース化は有効な方法である。今後、医学図書館においても、この方法が積極的に用いられることが望まれる。

Ⅲ. 藤田文庫、竹山文庫の書誌データベース化と冊子体目録作成

藤田文庫は、東京大学名誉教授 藤田恒太郎博士(1903~1964)の蔵書で、和書(和装本を含む)398冊、洋書842冊を数え、ほかに製本雑誌を含めると1,400冊にもなる。解剖学、歯科学、生物学にわたるコレクションである。

竹山文庫は、新潟県分水町出身の医師で、新潟

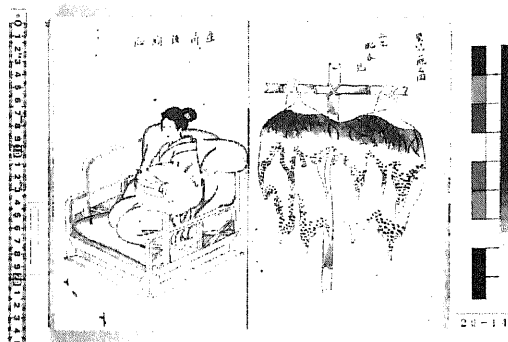


写真 1. 「賀川産書」写本

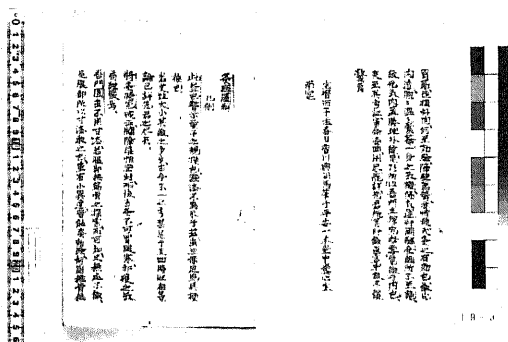


写真 2. 「灸點圖解」写本

医学校(新潟大学医学部の前身)初代校長を務めた竹山屯(たむろ)氏(1840~1918)の蔵書の一部で、和書(和装本を含む)248冊、洋書82冊、合計330冊を所蔵する。江戸末期から明治初期にかけての医学書を中心とするコレクションである。

この2つの文庫に関しては、書誌データベース構築と、データベースから出力した冊子体目録の作成を行った。

1. 書誌データの入力

貴重資料の目録を作成する場合、NACSIS-CAT(学術情報センターの目録システム)を利用したとしても資料の刊行年代が古かったり、言語が多様であったりするために、どうしてもヒット率が低くなるが、藤田文庫も例外ではない。

洋書842冊は10カ国語に及び、最も古い図書

は1683年の刊行である。1700年代の図書が17冊、1800年代の図書が約160冊ある。入力した結果は、NCファイルへのヒット率が38%、オリジナル入力の割合は約30%であった。独・英・仏以外の図書はほとんどがオリジナル入力である(ちなみに最も多かったのはドイツ語で、洋書全体の約50%であった。この時代の傾向を反映していて興味深いものがある)。

図書館職員として、語学力の重要性を改めて認識させられた仕事であった。辞書で確認しつつ、NACSIS-CATへの登録を完了させた。

竹山文庫330冊のデータ入力は東京の業者に外注したが、書誌データの点検にかなりの時間がかかり、作成したデータがNACSIS-CATに登録されなかったのは残念である。完成したローカルデータを一括してアップロードできるようなシステムが今後必要とされる。データ入力の外注化は今後増えていくと思われるが、解決すべき点はまだ残されている。

2. 冊子体目録の作成

藤田文庫および竹山文庫に関して、データベースから出力した原稿をもとに、冊子体目録を作成した。

LIMEDIOのパッケージにある図書目録出力のプログラムを利用すると、以下のような理由で、出力されるデータ数は図書の冊数よりもかなり多くなる。

- ・書名目録では、書誌階層上のすべての「書名」から書誌データが出力される。また、先頭に冠詞がある場合には、その冠詞を含めた場合と無視した場合の2箇所から出力される。
- ・総合書名を持たない図書の場合には、TRのフィールドに記述した全ての書名から出力される。
- ・著者名目録では、ALのフィールドに記述した全ての著者名から出力される。

利用者にとっては索引を調べる手間が不要にな

り、思いついたところから検索できるという利点があることから、出力したままを原稿にした。作成した冊子体目録は、主題から検索する機能こそ持たないが、数百冊程度、文庫に限って検索する場合には、OPACよりも短時間で確実な検索が可能である。

3. OPACによる検索について

当初の計画では、OPACで検索した結果、ヒットした図書が特定の文庫の中にあることがわかれば十分と考えていた。しかし、特定の文庫を一覧する機能が必要であるという意見が強くなったので、そのための手段を考えた。

当館のOPACには所在から検索する機能がないので、請求記号の中に文庫を特定する機能を持たせることとし、藤田文庫の分類記号をW5F、竹山文庫の分類記号をW5Tとした。(W5はNLM分類表による、医業-集書に該当する)この方法で、藤田文庫と竹山文庫を別個に集められる上に、分類統計の集計にも支障がない。

図書記号は、和書にはJに続けて一連番号を付与し、洋書にはFと一連番号を与えた。一連番号は受入時に著者名順に付与してあった番号をそのまま利用した。なお、藤田文庫の和装本は未整理のまままで最近発見されたので、和書とは別にWという図書記号を与えた。その結果、例えばW5F//Wという請求記号で検索すると、藤田文庫の中の和装本だけをヒットさせることができる。

ところがインターネット経由でOPACに入ると、ヒット件数の上限が300件に設定されているために、それを超える、藤田文庫の洋書と和書の検索にはこの方法が使えないことがわかった。そのため、学術情報系の協力を得て、全体を一覧するための書名リスト(和書・和装本は五十音順、洋書はアルファベット順)を作成した。内容的には、文庫一覧の書名リストは冊子体目録の書名編であるが、インターネットでどこからでも見られ

るのは冊子体にはない魅力である。

IV. 資料の修復

これらの図書が、寄贈を受けてからほとんど利用されることなく保管されていたことは、資料の保存という点からはあるいは良いことであったかもしれない。それでも和装本の中には虫食いや端が折れ曲がったものがあり、一方洋書には背表紙の革の部分がボロボロになっているものが目立った。

整理が完了した段階で資料室の公開と一部資料の展示を予定していたので、今回は予算の範囲内で、特に重要と思われる藤田文庫の洋書と森田文庫の写本・稿本の修復を行った。

1. 洋書の修復

約300冊を埼玉県の業者に発注した。修復の原則は、できる限り現在の状態を維持することとし、将来もっと技術が進んで、完璧な修復が可能になった時には、今回の修復の結果を白紙に戻すことができることとした。したがって、製本構造の修理を行ったものよりは、中性紙のジャケットや箱の装着を行ったもののほうがはるかに多い。

しかしジャケットや箱で覆ったために、背表紙の書名等の情報が見えなくなるという問題が生じた。図書自体の雰囲気を残すには背表紙を複写して、それを糊で箱などに貼る方法が最善であるが、そのためにかかる時間のことと、今回は古い図書が多くて、複写しても書名を判読できないものがあることから、この方法は断念した。結局ラベルワープロ (TEPRA) を使用し、1行におさまる程度の書名を印字して、箱やジャケットの背の部分に貼った。

2. 和装本の修復

森田文庫の中から13冊は裏打ちを行った。1

冊は紙の両面に記入がしてあったので、穴埋めだけを行った。なお裏打ちには約10週間を要した。

竹山文庫に関しては既に帙を作成済であるが、中には補修を必要とするものが散見される。また今回の整理の対象とした3文庫以外にも、貴重な資料でありながら破損が進んでいるものが多い。先人から引き継いだ文化的遺産を後世に伝えていくためには、施設の整備と同時に資料の修復にも積極的に取り組む必要があることを痛感する。

V. 特別閲覧室の設置

当館ではこれまで、貴重資料を隣り合った2室に保存し施錠して、利用者から要請があった時のみここを開けていた。一般公開するためにはどうすればよいか検討した結果、この2室を完全に区別して利用することにした。

1室を保存専用の部屋として施錠し、他の1室を特別閲覧室として常時公開することにした。両室とも、展示ケースや展示棚は施錠されており、閲覧希望者はカウンターに申し出れば中の資料を閲覧したりガイドを受けたりすることができるようになっている。

また、両部屋の一部改修を行い、窓は紫外線カットのガラスに換え、2室の間を職員が自由に行き来できるよう壁をぬいてドアをつけた。将来は、照明や温湿度調節等環境を整えたい計画である。

現在、資料の負担を軽くするため、展示資料は3か月ごとに取り替えることになっている。

VI. インターネット公開と新聞・テレビの報道

森田文庫の画像データベース、藤田文庫と竹山文庫の書誌データベースの完成を待って、これらをインターネットに公開した。貴重医学資料案内画面を作成し、そこでデータベースの概要がわか

るようにした。

インターネット公開とともに、新聞・テレビ等の報道機関に対し貴重医学資料のデモンストレーションを行った。これは当館が地域に対する公開を積極的にPRすることを考えたからである。報道機関の反響も大きく、新聞社4社とテレビ会社4社が大きくこの記事を報道した。大手地方紙である新潟県の代表紙「新潟日報」は2度にわたり記事を掲載した。

各紙の記事のタイトルは以下のものである。

新潟日報 1998.11.18: 貴重な医学書公開
読売新聞 1998.11.18: 医学書 1800 冊公開
産経新聞 1998.11.18: 貴重な医学書ズラリ
新潟日報 1998.11.25: 医療文化史知る一級資料
朝日新聞 1998.11.25: インターネットで医学資料など公開

11月25日付の新潟日報では、当館の貴重医学資料と新潟の地域文化との関係をわかりやすく述べている。

現代は情報の時代といわれているが、マスメディアといわれる情報伝達手段の中でも、インターネット、新聞、テレビの影響はその最たるものと思われる。当館における最近のホームページのアクセス回数、貴重資料データベース利用申請者数、当館を訪れた貴重資料閲覧者等の状況は以下のとおりである(1998年)。

- (1) ホームページのアクセス回数
(貴重医学資料の案内画面へのアクセス)
10月: 99回 11月: 431回
- (2) 貴重資料データベース利用申請者数
12月13日現在: 84名
- (3) 当館を訪れた貴重資料閲覧者
(貴重資料閲覧は平日の午前9時から午後5時までに限っている)
11月20日~12月13日: 26名

このほかにも電話による問い合わせがかなりあった。

貴重資料データベース利用申請者は、研究者、学生、自治体職員、町立病院医師、図書館員、その他様々な一般市民等、多岐にわたり、地域的にも県内にとどまらず全国に及んでいる。利用目的も研究以外に勉強、教養の向上、自己啓発等、様々である。

当館を訪れた貴重資料閲覧者の中にも新潟県内だけでなく他県からの利用者がいて、研究資料の所在を広く広報することは大事ではないかと思われる。また、一般市民の中で鍼灸関係者がいたことを考えると、大学関係者のみが研究資料を利用するのではなく、広く一般の利用も考えていかなければならないであろう。当館への訪問者には担当係がガイドを行い好評である。参考書や解説書を調べマニュアルを作成し、それをもとに係全員がガイドできるような態勢を整えた。

また、貴重資料の一般公開を行うにあたり、旭町分館主催で講演会を開催し、新潟市在住の日本医史学会理事長、蒲原宏氏の講演会を行った。蒲原氏は「旭町分館の貴重医学資料」と題して、森田千庵に始まり竹山屯につながる越後における蘭学の系譜について講演され、貴重医学資料の大切さを話された。文化の架け橋として、その大切さを話されたのである。

この公開により、大学と地域との接点ができたことを実感した。

VII. 貴重資料と医学図書館：その展望

平成11年度、当館では増築が決定している。「図書館から医療情報センターへ」の改革を目的として次の3つの機能を果たすため増築要求を行ってきたが、それが認められ実現の運びとなった。3つの機能を以下に述べる。

- (1) 医療情報ライブラリーセンター機能

(2) 生涯教育・学習支援センター機能

(3) 環日本海医療情報センター機能

この中の(2) 生涯教育・学習センター機能を持つというところで、その目的を同じくする放送大学新潟学習センターとの合築が実現したのである。

増築についての学内の話し合いの中で、これまでの旭町分館の活動が評価され、展示コーナーを特別に発展させるよう計画されている。この展示コーナーは今回整理した貴重医学資料をもとに学内から展示物を募り、ユーザー参加型の展示コーナーとするよう働きかけを行う予定である。

生涯学習時代の到来とともに、大学の地域への公開はいっそう求められている。医学資料を蔵書を中心とする医学図書館もこの例外とはならないであろう。貴重医学資料はこの面において、地域の医療文化史としてその接点になれるものであることが今回の公開でわかった。図書館の大学全体の中での役割を考える時、ユニバーシティミュージアムとして、大学の文化を学内の学生、研究者

のみならず、地域、そして後世に伝えることは図書館に課せられた使命ではないだろうか。

森田文庫画像データベース

<http://www.lib.niigata-u.ac.jp/adesinfo/index.html>

藤田文庫・竹山文庫データベース

<http://medlib.lib.niigata-u.ac.jp/Bunkan/kityo.html>

参考文献

- 1) 國井秀子, 白田由加利, 金崎克己. 電子図書館－システム構築の事例より－. bit 1997;29(2):29-38.
- 2) 新潟県教育委員会. 近世の洋学研究資料－新潟県文化財緊急悉皆調査報告書－. 新潟県文化財調査年報第23. 新潟:新潟県教育委員会, 1985:109.
- 3) 斉藤真佐夫. 「医の博物館」への誘い. 医学図書館 1996;43(2):190-8.
- 4) 筑波大学附属図書館. 電子図書館で提供する全文情報について－貴重書を中心に－. つくばね:筑波大学附属図書館報 1998;23(4):3-4.